

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ミカ⑨－それなのに今』

武田真治牧師

ミカ書 4:7-14 マタイ福音書 23:37-39

今日の箇所9節以下には「今」から始まる言葉が4つあり、目立ちます。この「今」と訳されている言葉は（アフアーハ）という言葉で、これが文頭に出ていることは“驚き”を表しています。即ち「どうして、今、そうなの？」というニアンスなのです。このように語っている預言者ミカは、何をそんなに驚いているのでしょうか？

この時は、敵国のアッシリアがエルサレムを包囲したにもかかわらず、滅ぼされることはなく、神さまによって軍隊が退却するという奇跡的な出来事を起こして下さった後でした。ミカは神様が祈りを聞いてくださったと感激し、これからは神様が守り導いてくださると4章前半の「回復の預言」を取り継いだのでした。「主は多くの民の争いを裁き、はるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。」と。

しかし、そのような喜ばしい状況にあるのに、なんとエルサレムの住民たちは喜びに沸くどころか「泣き叫んでいた」のでした。それが最初に触れました「どうして、今、そうなの？」という疑いと驚きなのです。彼らの悲しみの原因は、9節「王はお前の中から絶たれ、参議たちも滅び去った」でした。住民たちの“王様や指導者達への絶望”です。

直前の3章11節では「頭たちは賄賂を取って裁判をし、祭司たちは代価を取って教え、預言者たちは金を取って託宣を告げる」とあるように指導者たちすべてが腐敗し、私腹を肥やしていたのでした。それでも、ちゃんと国や住民を守ってくれるなら、まだよしとできたかもしれません。しかし、上記の様に、いざアッシリアが攻めてきた時に王や指導者たちは全く為す術もなく、狼狽し、逃げ出すことしか考えていなかったのです。エルサレムの住民にとって、王様や指導者に絶望し切ってしまったのでした。しかも、破壊は免れたとはいえ、周辺にいる他の外国が代わりに攻めてくる危機も

依然として残っていたからでした。『我々は誰を頼ればいいのか？』と泣き叫んでいたのです。

そのエルサレムの住民に対するミカが語った預言が10節以下です。「今、多くの国々がお前に敵対して集まり『シオンを汚し、この目で見よう』と言っている。だが、彼らは主の思いを知らず、その謀（はかりごと）を悟らない」と。神様のご計画が進んでいるから“大丈夫、信じて待とう！”と呼びかけているのです。同じように「娘シオンよ、子を産む女のように、もだして押し出せ」という預言も、今は苦しく辛く感じる時かもしれないけれど、この痛みは子どもを生み出す時の“陣痛”に等しいと語り掛けているのです。新しい命を生み出すための通過点なのだ。そして5章の《まことの王である救い主》が与えられる預言へと向かうのです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 11月22日(水) 20:00
II. 11月23日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: 収穫感謝、謝恩日を覚えて
担当者: (水) 山中 (木) 兼川
祈りに覚える人: 近森さん 堤さん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女54 計71
祈祷会 I. 男6 女1 計7 II. 男2 女6 計8
日曜学校 幼稚科4 小中科12 計16

【次週主日礼拝】 11月26日(日)

聖書: イザヤ書 40:1~8
ルカによる福音書 23:56~24:12
説教: 「洗礼を受けている」 金刺 英雄 長老
讃美歌: 155(1)、32、387(1~3)、280(1~4)、303(1~4)、83(1)

【次週当番表】

司式: 岩佐長老 奏楽: 中村 礼拝: 茨木長老
献金: 細川 松下 受付: 金刺 坂田
会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻
西尾

看板 中村 週報 吉岡 お花 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会・聖歌隊練習
・礼拝/伝道/牧会/教育/社会 各委員会

2023年 11月 19日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>